

## 農事組合法人「アグリさんが」 代表理事

## 上田 均さん

## 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

綾部市の西部に位置し、丘陵地帯に水田など約13畝の農地が広がる豊里町。農事組合法人「アグリさんが」は、同町内の農地10畝で水稻を中心に、小豆などを栽培する。「この地域の農業と農地を守って行くため、米だけではなく、野菜などニーズの高い作物を作りたい」と話すのは、同法人の設立時から代表理事を務める上田均さん(77)だ。

圃場(ほじょう)整備された農地を守るために営農組合を設立し、水稻・小豆などを生産してきた。JAや行政の指導もあり2007年11月に法人化し、10年目を迎える。

設立当初は主食用米を中心に栽培していたが、農業機械の更新を

## 野菜栽培 導入に意欲

きっかけに、JAの勧めで酒造好適米「五百万石」と加工用米「京の輝き」に切り替えた。15年度の京都府酒米研究大会の「五百万石の部」で最優秀賞を受賞するなど、高い評価を受けるまでになった。さらに、畑地を中心に増加する遊休農地を再整備し、現在は、1畝に小豆を作付している。

上田さんは、「JAの指導で、酒米や加工用米の生産にいち早く

取り組んだことで、収穫時期をずらすことができた。毎年悩みだった水害などによる収穫量の減少に悩まされることもなく、安定した収量が見込める。経営も安定した」と話す。

一方でこの地域の農業用水は、「栗用水」と呼ばれ、先人たちが残した井堰からポンプで供給している。「水代などが掛かり、他の地域とは違う悩みがある。地域の

皆さんの協力なしには成り立たない。これからも地域と密接に連携することが必要だ」と上田さんは訴える。

また、集落の高齢化や後継者不足は深刻だ。「これからは法人に農地を預けたい人が増えてくるだろうが、法人のメンバーも高齢化している。年々厳しくなっている」と厳しい現状を語る。

「法人の後継者を育成するため、今後は野菜などを周年栽培して、年中仕事ができるようにし、人を雇える環境を整えることも考えたい。遊休農地を活用してハウスを建て、新たに万願寺甘とうの栽培などにも取り組んでいきたい」と上田さんは話す。



▶豊里町の農業を先導する上田さん

■法人所在地 綾部市豊里町長砂42番地。(電)080(1442)3109(上田さん携帯電話)。

■法人概要 2007年11月設立。理事3人、監事2人、組合員36人、パートタイマー5人(農繁期)。経営面積 10畝(酒造好適米「五百万石」6畝、加工用米「京の輝き」2畝、「コシヒカリ」1畝、麦・小豆1畝)。農業機械 トラクター3台、コンバイン1台、田植え機1台。